

## 呉まちなか公共空間デザイン会議（第2回） 摘録

1 日 時 令和5年12月22日(金) 9時30分～12時

2 場 所 呉市役所7階 758会議室

### 3 概要・骨子

9:30

#### 【新原市長挨拶】

皆様、おはようございます。本日までご出席をいただきまして本当にありがとうございました。お礼を申し上げます。

第1回目の会議にも出席いたしましたが、呉市が開催しています、同じような会議の中では、おそらく一番活発に議論が行われたのではないかと思います。皆様の思いについて丁寧にお話をしていただき、本当に感動いたしました。本日も、皆様のお考えを、思い切りご発言いただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。

9:40

#### 【議事(1)及び(2)】

議事(1)に関して事務局より説明（資料3（3-1, 3-2部分））

議事(2)に関して下野委員より説明（参考資料2）

10:00

#### 【質疑・意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

- ・アクティビティとコンテンツ、空間の再構築について

○

前回の会議の内容を踏まえ、世界中から人が訪れてくれるような公園を考えた。

スペインのビルバオは、呉と同じように鉄鋼と造船で発展したまちであったが、それらの衰退後、「工業のまち」から「芸術と観光と食のまち」に生まれ変わり、世界の創造都市プロジェクトの中で最も成功した事例のひとつとして名前が挙げられている都市である。

その最も象徴的なものがグッゲンハイム美術館である。グッゲンハイム美術館は、ニューヨークが本店の近代美術館である。年間100万人

が訪れ、海外からの来訪者を含め、八割が地域外から訪れるような美術館となっている。

その他にも、アラブ首長国連邦のアブダビでは、ルーブル美術館の隣に歴史博物館とグッゲンハイム美術館を建設し、文教地区にして世界中の人を呼び込もうとしている。

また、シドニーのオペラハウスは建設からずいぶん経つが、未だにシドニーのランドマークになっている。

このようなランドマークとなる施設が呉にできないかと思う。もしできるものなら、JR 呉駅に整備予定の2階デッキから続く遊歩道を整備し、その上に天空の城のような建物をつくってはどうかと考えた。そこから4ブロックに降りて北側の空間へ繋がっていくイメージである。東京都の江戸東京博物館の整備状況がイメージに近い。

もう一点、呉を食のまちにできないかと思っている。「よいまちくれバル」というイベントを年2回開催している。70店舗が参加し、特に若い料理人は非常に熱心で、若い客層からも支持されている。彼らがもっと活躍すること、また、併せて、三ツ星レストランを誘致すれば、より食のまちとして生まれ変わることができると思う。

こういったものと大和ミュージアムの効果を足すと、人がまちへ流れていく。また、音戸・倉橋地域や安芸灘地域へ回遊するような好循環が生まれ、呉市が目指している「観光消費額を年間800億円にする」ということも成り立つのではないかということをも夢に描いた。

〔田中座長〕

集客力を持つようなランドマークの整備というご意見と、もう一点は、食のまちとしてのまちづくりの観点を持つことが必要というご意見を頂いた。

○

資料中に視点として二つ足りないものがあると思っている。

一点目が先程のご意見の通り「人が集う、世界から集まる」という視点である。加えて、呉で暮らしている人たちに対しても、公共空間は、暮らしに希望を得られる場所でないといけないと思う。

二点目の視点であるが、誰もが参加できる「呉百人会議」を私たちの法人で開催し、この公園に何があればいいかという意見交換を行った。

その会議の中で、市民の方々から、動物と触れ合える場所があれば良いという意見があったので、一つの視点として加えてはどうかと思う。

〔田中座長〕

世界から人を集めるという視点をもつこと、また、日常の暮らしという視点も重要であり、特に動物と触れ合うという視点を加えていくべきであるというご意見を頂いた。

○

この度の検討に当たっては、どういった人をターゲットとして取り組んでいくのかということを考えている。

前回の会議で、現在の公園は、多くのブロックに分断されており、車が通って安全性を確保できないという意見があり、また、駐車場を含めたアクセス面で、子どもたちが来ることが難しいのではないかという発言をした。

この度の参考資料3にあるように、市役所に隣接する中央公園に大きな芝生広場が整備されると伺った。また、体育館付近に駐車場が整備されていることから、暮らしている方も子どもたちを連れて遊びに行きやすい。そうすると子どもが遊ぶ場所は、こちらのエリアで良いのではないかと思った。

この度議論を進めている堺川沿いの中央公園に関しては、冒頭のご意見にもあったように、本当に世界から多くの方に来て頂きたい。また、長年の懸案である JR 呉駅と商店街を結ぶ動線という意味も含めて、ウォーカブルな空間で観光客や暮らす人が公園を行き交いしながらにぎわうような場所となれば良いと思う。そういったことから、参考資料2にある実証実験にあるような、大人向けの公園機能を取り入れていくことが良いかと思う。

〔田中座長〕

防災整備が進んでいる中央公園との使い分けという視点を頂いた。その際、「大人向け」が一つのコンセプトとしてあるのではないかというご意見であった。

○

先程ご意見があったように、私も動物を連れて行ける場所があったら

良いと思う。

また、蔵本通り側の空間にも子どもが集える場所があると良い。現状、8ブロックには大型遊具があり、大人も子どもも集中し、賑わっていると思う。しかし、それ以外のブロックは、大人の方が少しいる程度が現状である。

そういったことから、8ブロックは大人も子どもも集える場所、図書館前のエリアは、静かに大人が本を読む場所、動物が苦手な方もいらっしやるので、どこか動物とふれあえる場所を決めるというように、ブロック毎にイメージをつくり、色々な方が集える場所になったらいいと思う。

〔田中座長〕

現状として8ブロックに人が集中しているので、それを少し分散させるためにも、ゾーン毎にコンセプトが必要であるというご意見を頂いた。例えば、蔵本通り側の空間も子どもが集える機能が必要で、8ブロックは大人と子どもが集える場所、図書館前は静かなエリア、動物のエリアも必要であるというご意見を頂いた。

○

先程のご意見のとおり、ブロック毎に役割を変えるという意見は良いことだとは思う。

そういった中で、8ブロックは、既に多くの子どもたちがいるが、子どもたちだけではなく、一緒に来られている親、また、地域の方などが一緒に交流ができる環境をつくれると良いと思った。

そのためにも、八つのブロック全体では、遊具のゾーンや、カフェなどがあって雨の日でも親子が安心して集えるようなゾーン、ゆったり大人な雰囲気、静かに過ごせる芸術ゾーンなど、色々な要素をミックスすると良いと思う。それぞれのゾーンに魅力があり、回遊してもらえるようにすれば、より動きが生まれ、子どもたちと大人たちの世界の分断のようなことにならずに、子どもと大人の世界が融合した空間になると思う。

11月に開催された「街の森のアトリエ」では、木の下にソファが置いてあり、そこでくつろいで過ごす方たちがいた。椅子や音楽、コーヒーを飲みながらゆっくり過ごせるなど、きっかけがあるだけで、ゆったり過ごして滞在しよう、景色を楽しもうということに繋がっていくと

思ったので、そういった仕掛けがあるとすごくいいと思う。

アクティビティとコンテンツの視点②「自由に集い、学ぶ・働く」と参考資料2の実証実験に関連した話になる。呉市に住んでいる方の中には、得意なことを持っている人が多くいるが、それを披露したり実践したりする場所や物の確保・管理、発信が難しく、できること・やりたいことはあるができない、ハードルが高いと思っている方がたくさんいる。そういったことを解消していくためにも、気軽に相談ができ、大変な手続きがなく場所が確保できるなど、チャレンジする人をサポートするような場所ができると良いと思う。場所だけではなく、サポートする体制もあれば、自由に集い、学ぶ・働くということが実現でき、得意なことがある人が輝くことができると思う。

また、アクティビティとコンテンツの視点④「大人も子どもも本気で遊ぶ」に関連して、家ではなかなかできないような大型遊具の常設のほか、例えば、遊び道具の貸し出しなど、物をすぐに使える状態で提供してもらえる環境があればすごく良いと思う。

〔田中座長〕

一点目として、八つのブロックそれぞれに特徴的なものを置いていく事で色々な体験ができ、回遊できる空間を提供できるのではないかというご意見であった。

二点目として、椅子、音楽、カフェ、テーブルなど、ちょっとしたきっかけが散りばめられていれば、滞在を促すことができるのではないかというご意見であった。

視点②に関して、得意なことを持っている市民の方のチャレンジをサポートするような機能や体制があると良いというご意見であった。

また、視点④に関して、遊び道具の貸し出しというご提案で、これは先程のきっかけをつくるというご意見に繋がり、公園利用を促す仕掛けが必要というご意見であったと思う。

○

私は、中学生と高校生の母でもあり、この空間に彼らの居場所が作れたら良いと思う。中学生や高校生はきっかけさえあれば、公園を使うと思う。

高校生の実態から考えると、スマホや SNS を利用するための Wi-Fi 設

備、また、甘いものなどを食べることができる飲食施設があれば良い。

その他、試験勉強や資格取得の勉強をする学生は、図書館を利用して  
いるが、図書館の利用といっても、本を借りるというよりは、勉強する  
場所を求めている。勉強の合間に飲食をしながらリラックスできたり、  
写真撮影ができるような、ちょっとしたアクティビティがある、そのよ  
うな勉強にプラスして楽しめる空間・場所があれば、中高生が利用する  
のではないかと思う。

〔田中座長〕

一つの視点として中高生の居場所というご意見を頂いた。先月、大学  
の研究の一環で、高校生に中央公園にどんなものがあったら良いですか  
ということを探ねるワークショップを開催したが、Wi-Fi, 食べる場、勉  
強する場といった話が出てきた。

○

私は4ヶ月の子の母であり、子育て世代が繋がる場を持てる空間であ  
ったら良いと思う。子育てする中で、同世代の方や子育て経験者の方の  
意見を聞くことは、支えになるので、市役所や市民センターといったか  
しこまった場所ではなく、公園の中にそういった空間があれば良いと思  
う。

また、最近は安全性を求められている遊具が多く、子どもが安心して  
利用できる遊具が優先されており、大人が本気で子どもと遊べないの  
ではないかと思う。子どものころに親と一緒に遊んだ記憶は大きくな  
っても残っているので、魅力的で大きな遊具で、大人も子どもも一緒  
に本気で遊べるようなものもあれば良いと思う。遊具の中には頭を使い  
ながら遊べるものもあると思うので、そういったものがあると良い。

冒頭の話に関連して、ニューヨークのグランドセントラルターミナル  
には、柱に向かってささやくと、声が反対側に届くという柱がある。そ  
ういった遠くからでもそれを目的に来てみたいと思えるような場所を呉  
でつくってみてはどうかと思う。

〔田中座長〕

一つは子育てなどで交流ができる空間で、敷居が低く、あまりかしこ  
まっていない場所があれば良いというご意見であった。

もう一つは、本気で遊べる、記憶に残るような遊具等でそういう体験

が提供できるといいというご意見であった。

最後に、冒頭でいただいたご意見にも繋がるが、世界から人が来る仕掛けができたらいいいというご意見を頂いた。

○

議論の中でブロック毎、ゾーン毎にコンセプトを設ける話があり、それぞれのゾーンで魅力を発揮していくことがすごく重要であると思い拝聴をした。一方で、ゾーン毎にコンセプトを分けるのは良いが、拡散してしまう懸念もあるので、ゾーン毎に個別にコンセプトを持ちながらも、一つのコンセプト、群として一体的な迫力のあるコンセプトがあると、より個々のコンセプトが活かせると思った。

一体性を考える上で、重要となるのは各ゾーンを繋ぐ川であり、空間の再構築に関する視点①「川をまちの中心に」の考えを大切にして、コンセプトの中に川を取り込み、川と公園空間が分断されないように、各ブロックの川との関係性、親水性を空間操作の中で意識しながら空間形成が図れる良いと思う。

資料中のセーヌ川の写真にあるとおり、外国人は、一日中川を眺めているぐらい本当に川が大好きである。人は変化しないところにずっといるのは苦痛でしかないが、川は、水位の変化や船が通行するなど、何かしら変化があるので飽きない。この変化を生み出すものが川であるので、そこを大事にした空間や、コンセプトをつくり、その個性を押し出せると良いのではないかと思う。

外国人は屋外で飲食することも好きである。呉市では、商店街エリアにおいて、リノベーションまちづくりが盛んに行われているので、上手く連携し、川辺でテラス席を設け、そこで飲食できるような空間を生み出すなどすれば、セーヌ川の写真のようになるのではないかと感じている。

〔田中座長〕

一つはゾーン別にコンセプトがありながらも、全体として一つの共通する強いコンセプトが必要なのではないかというご意見であった。また、そのコンセプトに川が大きく関わるのではないかというご意見であった。

もう一つは、その川沿いで、商店街エリアと連携して外で飲食する空間をつくるなど、周りのまちとも連携しながら、空間をつくっていくと

ということが重要なのではないかとというご意見であったと思う。

○

冒頭のご意見にあったグッゲンハイム美術館のような施設ができれば、本当に夢があり、いいなと思った。

また、先程のご意見も大変共感した。現状としては、この空間は川が主役になっていない。川に面したエリアは、本当は価値が高い筈である。現在の堺川通り側の公園空間は、駐車場や道路で商業エリアと分断され、入ってはいけないエリアのように見えるため、公園が公園としてあまり認識・機能していないと思う。

空間の再構築の視点③「公園空間を繋ぐ」に関して、空間を繋いでいくためにも、図書館を一体化させた整備、また、空間のマネジメントやデザインにも関係するが、多くの人から認識されるようなネーミングや、図書館エリアも含めた全エリアを通して、例えば共通のサイン計画がなされて、そこがポイントだと認識される取組をしたら良いと思う。

[田中座長]

川をもう少し積極的に利用しようというご意見を頂いた。

また、空間の再構築の視点③に関連してこの公園だけではなく、図書館等の周辺を含めて、一体で考えていく必要があるのではないかとというご意見であったと思う。

最後に、愛される場所にするためのネーミングが必要なのではないかとというご意見と、全体的に統一感を出すということ考えたときに、サイン計画も含めて考える必要があるのではないかとというご意見を頂いた。

○

中通や本通の商業エリアはおそらく 50 年先もそのカテゴリーは変わらないと思う。そういった中で、建物が古く、建替に要する建築費用等を考えれば、今後、建物解体後に駐車場として活用するケースが増えるのではないかと私は考えている。

先程の空間の再構築に関する視点①の「川をまちの中心に」に賛同する意見として、この川を中心として、もっと多くの人にまちに来てもら



わないといけないと考えたとき、堺川通りは、アクティビティとコンテンツの視点⑨「気の向くままに歩く」にもあったように、車道の幅を狭めることが必要で、私としては、全部が歩道でもいいのではないかと考えている。もし、川沿いの駐車場がなくなったとしても、民間の駐車場が増える状況からすれば、駐車需要にも対応できるのではないかと考えている。ウォークアブルということは、駐車場が全くないということではないと思うが、一定のエリアに固めるなど、あり方を見直した方が良く思う。

空間の再構築の視点③の「公園空間を繋ぐ」について、私たちもこれまで、公園のあり方を八つのブロックを基本として検討してきたが、現在、川の工事の関係で8ブロックと7ブロックの間にある弥生橋が通行止めとなっており、さほど困っていない状況である。このことから、資料にあるとおり、橋を半分程度減らし、概ね四つのブロックで、各ブロックのコンセプトメイクをもう一度組み立てていかないとはいけないと考えている。

コンセプトについては、混ざり合っただけの色が一つできるのではなく、色々なグラデーション、そこはまだマーブル、色々な柄になるような空間になればいいと思う。

○

私個人的には、先程のご意見と全く同じ考えで、川沿いの駐車場が商店街と公園・河川空間を分断していると考えている。

今、現状として、中央地区商店街には多くの駐車場があるが、無料駐車場は無い。また、買い物客に対するサービス券の対応は、川沿いの駐車場などの公共駐車場は、回数券や大口割引の対応をされているため、買い物客に対するサービス券の対応がしやすい状況にある。蔵本駐車場ももちろん同様のサービスを行っているが、高齢者の方にとって、商店街と距離があり利用が難しいと思われる。商店街で川沿いの駐車場のあり方についてのアンケート調査を行えば、そのまま残してほしいとの意見が多い結果となると思われる。

また、平成27年から実施して頂いたれんがどおりの再整備に当たり、自転車はれんが通り内の駐輪場に駐輪が可能で、バイクは川沿いの空間へ駐輪することとして整備をしていただいている。

川沿いの駐車場をなくした方が、このまちにとって、また、景観的にも良いことはよくわかっている。また、このような状況から、以前、大

学等の先生からも、まちを俯瞰して見たときに、商店街の建物が川の方  
向を向いておらず、残念であるとおっしゃっていた。駐車場からの転換  
をしていけば、少しずつこの状況も変わるのではないかと考えている。

〔田中座長〕

商店街との関係を考えてとき、川沿いの駐車場や道路が空間を分断し  
ているのは現状としてあるだろうというご意見であった。そうであれ  
ば、それらの空間を何らかの形で繋ぐデザインが必要で、そういった取  
組によって、最終的に建物が川の方を向いてくるという視点が必要な  
のではないかとご意見であった。

もう一点、ゾーン毎のコンセプトがありながら、全体で共通するコン  
セプトがあればよいとの話を、先程頂いているが、それに関連する意見  
として、何か一つの色となるのではなく、マールで、色々な柄となる  
ように考えるべきではないかとご意見であったと思う。

○

川沿いを改めて歩くと気づきがあった。

一点目として、川に張出歩道が整備されているが、東西方向の橋の箇  
所で途切れており、川沿いを縦に歩くことができない。縦に歩くとなれ  
ば、やはり蔵本通りの歩道となると思う。張出歩道を連続して繋げるこ  
とが技術的にできればまた違うとは思いますが、そうでないとしても、現  
状では蔵本通りの歩道から川側へ行こうとしたとき、その間にある樹木や  
植え込み等により隔てられている感じが強く、横に動きにくい空間とな  
っている。樹木や植え込みの配置等を見直せば、川側へのアクセスが良  
くなるのではないかと思う。

二点目として、堺川通り側の川沿いの公園空間が全部、駐車場と駐輪  
場であることが勿体ない。今回の取組で、これらの川沿いの空間の整備  
をせず、蔵本通り側のみを整備し、人が集まると、なぜ商店街側の空間  
を整備しなかったのかという話が出てくると思う。この機会を逃すと本  
当に整備をするときがないのではないかと思う。

川沿いの駐車場を公園にして、堺川通りの車道を狭め、広く歩ける歩  
道を整備し、人が集まれば、商店街の建物は自然と川の方を向いてい  
く流れになると思うので、まずは川を中心に魅力あるエリアを作ること  
を考えなければならないと思った。

資料の16ページの空間の再構築に関する資料で、5～8ブロックを

大きなまとまりある空間として、使いやすい空間として変えていくことは良いことだと思った。この辺りの空間を一般の人がよく使うエリアにして、1ブロックや2ブロック辺りは、冒頭にお話があったシンボリックなものがあれば、呉駅や大和ミュージアムなどから人が来るイメージがわいてきた。

〔田中座長〕

一点目はデザインの話になるかと思うが、川へのアクセスがしやすいデザインは、植え込みや植栽も含めて考える必要があるのではないかというご意見であった。

二点目は、川沿いの東側の駐車場や駐輪場の使い方は勿体ないので、歩けるような場所にしていくのが良いというご意見であった。

最後三点目はゾーニングに関わる部分として、八つのブロックは全部独立ではなく、周辺の状況も踏まえて、まとまりを考慮できると使い道も広がっていくのではないかというご意見であったと思う。

○

今の空間は、公園、川、道路のそれぞれが完全に分離されているような状態になっている。先程も言われたように、8ブロックと7ブロックの間の弥生橋は、工事の関係で車の通行ができないが、あまり違和感はないと感じている。

先程、橋と川沿いのデッキが繋がってないため、川沿いを縦方向に移動できないというご意見があったが、橋を歩行者空間化することができれば、解消することが出来る部分もあるのではないかと思う。橋を歩行者空間化できない部分については、共存的な道路といった視覚的な見せ方も、技術的な話になるが、あるのではないかと思う。

また、商店街のバイクの駐車の問題があり、それを考慮した上で、商店街側の川沿いの空間を含めて、どのように一体化するか考えていく必要があると思う。

〔田中座長〕

空間の分断を少しずつ繋ぎ、一体化を図る必要があるのではないかというご意見の中で、共存する道路というものもあるのではないかと新しくご提案頂いた。

## ・デザイン・設え、空間のマネジメントについて

○

川を中心として空間を繋いでいくというご意見に関連して、駐車場という視点と、川との繋がりという視点で思ったことがある。

川の周りに外観の素敵なお店や歩けるようなスペースがあることは良いと思っている。一方で、近くに住んでいる人以外は、車での移動が多いと思うので、駐車場は必要だと思っている。

ご意見にもあったように、駐車場の料金がかかると行きづらくなる。また、慣れてない人にとっては、駐車場の場所がわかりにくく、アクセスしづらいとためらうこともある。例えば、川沿いの駐車場については、綺麗な景観を楽しむエリア、駐車場を確保するエリアとすれば、外から来た人たちにとっても利用しやすく、子育て世代、高齢者、歩くのが難しい方たちも使いやすい空間となると思う。

川へのアクセスという面で、蔵本通りと中央公園の間に植え込みがあり、公園の中が見通せないため通り過ぎるだけになっていると考えられる。公園の中が見えるとその先に川があり、歩ける場所があるということに気づくと思う。

川をどう活かすか考えたとき、もう少し川の近くまでデッキで降りることができ、デッキに椅子を置いてゆっくり川を見ながら過ごせると良い。また、水と親しむ場所として、子どもたちが水遊びすることができ、大人が川の流れを楽しめるように、川に向けて水が流れる動線をつくることで、空間を繋げていくこともできると思う。

空間のマネジメントやデザインに関わってくるが、道路などがレンガとなっているところはとても素敵だが、街路樹の根や横断歩道などの段差、レンガそのものの不陸による段差があり、ベビーカーや自転車だけでなく通行する際にも支障があることもある。デザインとあわせて、子育て世代や車椅子の方、自転車など何かを押したり持っていたりする様々な人たちが、もっと動きやすいような道の作り方、管理の仕方、動線になれば人が集まりやすくなると思う。

〔田中座長〕

駐車場関連のご意見で、車で来る方も想定した対応というのは必要で、景観を楽しむエリアと駐車場を確保するエリアを確保することで、利用者が楽しめると同時に、利用もしやすいという視点が必要というご

意見であった。

一方で、川との繋がりということで、先程のご意見にも関連するが、川を身近に感じられるデザインというのは、植え込みを含めて考える必要があるのではないかというご意見であった。

また、もっと川や水と親しむためのデザインもあり得るのではないかというご意見であった。

最後に、デザインと管理上の内容となるが、レンガの舗装の不陸による段差が通行の際の障害になっているという側面があるので、移動しやすい道について考えていくべきであるというご意見であった。

○

前回会議で、空間の名前の募集、フォトコンテストなどの市民が参加できるイベントを開催してはどうかというお話をさせて頂いた。これは、イベントを実施することで、公園に対し自分たちが関わったものだという実感を持ってもらい、愛着を持ってもらうことが目的であることを補足する。

以前、バリアフリー研究会で、車椅子の方やベビーカーの方が利用しできる、多目的トイレのマップをつくった。公園の中にもトイレはあるが汚いことが利用を妨げる大きな課題である。衛生面に加え、防犯や安全面に配慮したデザインのトイレがあると出かけやすいと思うので、これからの取組の中でもしっかりと考えていくべきであると思う。

7ブロックの川沿いには水が飛び出る遊具がある。あまり知られておらず誰も遊んでない状況ではあるが、こういった水と親しめる遊びができれば楽しいと思う。魚が泳いでいたり、水鳥もくるのでよく子どもと眺めているが、他に誰もいない状況で、そういったことが知られていたら、集えるきっかけになると思う。

〔田中座長〕

空間マネジメントに関連して、愛称の募集やコンテストのような形で市民の方が関わり、愛着をもってもらう機会を作ることが重要なのではないかというご意見であった。

二点目が、デザイン・設えに関連して、衛生的で安全なデザインのトイレが必要なのではないかというご意見であった。

三点目が、川や水との関係をつくっていくためのデザインとして、遊

具も含めて考えてはどうかというご意見であった。

私自身はご意見を伺って、この川にある色々な資源、知られてないものがあるので、それをみんなに知って頂くことも、空間マネジメントとしては必要ではないかと思った。

○

デザイン・設えの視点①「呉を体感するデザイン」について、前回会議でも少し紹介したが、建築の世界では、鉄で建物を作ることは、世界中、日本国内にもあるので、実現可能な呉らしい建築という意味で考えていけると良いと思う。

〔田中座長〕

冒頭のご意見に関連して、呉の造船の技術、鉄の技術等、呉を体感することに繋がると思うが、呉らしい技術を使った建築、デザインが一つの方向性としてあるのではないかというご意見であった。

○

本日のお話の中にあつた川沿いの水を使った遊具の話に関連して、知っている人は知っているが、知らない人は全く知らないというのが残念と感じた。この遊具は、珍しくて良いものであり、そこに段差もあるので腰かけることができる。私も市役所通りの方でお店をやっていて、歩いたりするが、この空間について知らないことも多い。

そういった中で、空間のマネジメントの視点②「活用のシーンを発信する」と関係してくるが、発信力をもう少し底上げすると良いと思う。SNSなどを活用したハッシュタグコンテストやプロがメディアとして地域を見ることも大切であるが、加えて、あらゆる人が主体となって、自身の発信力で、このまちが好きとか、うちの公園どうだ、うちのまちはどうだ、といった呉の魅力を伝えるような仕掛けがあれば良いと思う。

〔田中座長〕

この公園や、このまちに愛着を持っている、あらゆる人の発信力を上げていくような仕組みを作る必要はないかというご意見であった。

○

私は今子育て中の母親向けの情報発信をしているが、そのきっかけは、自分の子どもが小さいときに呉に引っ越してきて、関係する情報を探すことがすごく難しかったという体験にある。

呉市の中で、それぞれいい取り組みをされているが、そのことを知っている人は知っているが、知らない人はその情報にたどり着けないことが多いと思う。また、いい取り組みはあるが個々でしているので、取り組みをしている人側も繋がりやお互いに知れるような形ができればと思う。

私自身もイベントをしようと思ったとき、発信がとても難しかった。知ってもらえないことは本当にもったいないなと思っているので、情報を集約して発信し、個別の情報のサイトに飛べるハブみたいなものができれば、情報がわかりやすくなり、みんなで盛り上がっていけると思う。

〔田中座長〕

情報発信と情報収集のハブみたいなものが必要というご意見であった。

○

尾道にある U2 は、海沿いにテラスがあり、目の前の自然に触れ合いながら食事ができる。建物の壁面にある U2 のロゴを背景に写真を撮って、SNS で発信している。このように、SNS に載せたいような呉らしい材料を使ったデザインの建造物があれば良いと思う。また、同様に、写真を撮って発信したくなるようなデザインの遊具があればいいと思った。

川沿いの駐車場の話について、例えば中央公園の一つのブロックは、公園ではなく、立体駐車場を整備して、川沿いはふれあいのゾーンにしてみても良いのではないかと思った。

〔田中座長〕

一つは、川沿いの空間をうまく活かすデザインということで、U2 のテラスのようなアイデアがあるのではないかというご意見であった。

二つ目として、SNS などによる発信という点でも、名所となるような場所なり、デザインなり、そういった物が必要ではないかというご意見で

あった。

最後に、駐車場に関して、ある程度のエリアにまとめて作る必要があるのではないかというご意見であった。

○

今回の対象エリアにおいても川が中心となり、それがこの地域の価値を高めていくことに繋がるのではないかと思う。

基本方針の方向性については、具体的な取り組みのイメージも集約しながら、大きく四つにとりまとめているが、私としてはこの方向性で進めて頂けるということは、川の魅力も感じて頂けると思うのでありがたいと思っている。

〔田中座長〕

川中心ということが、地域の価値を高めていくというご意見であった。

○

先ほど発言した内容と同じになるが、ブロック毎の繋がりをつくっていくことが必要だと思う。それにより、幅広い利用の仕方、多様な人が自由にできる空間ができると思う。

〔田中座長〕

改めて、ブロックの繋がりという観点でご意見を頂いた。

・基本方針について

意見なし。

〔田中座長〕

その他なにかあれば発言をお願いします。



○

れんがどおりは数年前の再整備で、レンガではなく、インターロッキングを使用している。レンガは雨が降ると滑りやすく、安全な通行を確保するというこも考える必要がある。

マナーについて、一言付け加えさせて頂く。商店街では、以前は休憩用のベンチを置いて管理をしていたが、マナーの問題で、やむを得ず椅子を撤去したことがあるが、そのようなマナーの問題もあることを知っておく必要がある。

〔田中座長〕

一つはデザインに関して、安全面、バリアフリー的な観点も大事であるというご意見であった。

もう一点は、利用される皆様のマナーに関しては、何らかの対策は必要なのではないかというご意見を頂けた。

10:25

**【議事(1)】**

議事(1)に関して事務局より説明（資料3（3－3部分））

10:28

**【質疑・意見交換】**

委員からの主な意見は次のとおり

・未来ビジョンについて

○

世界から人が訪れる公園ということで、グッゲンハイム美術館をご紹介した。20年後、呉の人口はもっと減ると思う。そういった中では、外からきた方も一緒になってにぎわいを作っていくしかないと思う。世界中の人に知ってもらえるようなものができれば、呉が目指す観光都市に生まれ変わることができるのではないかという想いであり、そういったまちになれば毎日楽しいと思う。

○

呉に住んでいる方が自分たちのまちを好きになる、自慢できること

を、この20年で積み上げていくことが大事だと思う。

今、呉には何もない、あまり好きではないという声をよく聞くので、みんなにも好きになってもらいたい。自慢できる空間にするために今からできる情報発信やイベント等、今できることを積み上げ、最終的に呉を好きになる、自慢できる、住み続けたいくなる、そういったことをできる空間にできればいいと思う。

〔田中座長〕

まず一つは、呉、自分のまちを好きになってもらうということを将来、20年のプロセスの中でつくる必要があるのではないかというご意見であった。

そのために多くの方々が関わる機会をつくり、愛着や最終的に住み続けるというところに繋がっていくのではないかとご意見を頂けた。

○

ここに来れば呉が好きになる公園ということが大事だと思う。いろいろご意見を聞いている中で、名称も大事だと思った。

呉のことをよく知らないひとのためにも、「ココクレ公園」などわかりやすい名前で、色彩も呉をイメージするようなデザインで作ることが大事だと思う。

〔田中座長〕

呉を好きになってもらうというのが一つ大事なポイントとしてあり、そのきっかけがこの公園になればというご意見と、名称が大事というご意見を頂けた。

○

呉はいいところ、自慢できるところがたくさんあるまちだと思うので、周辺の島しょ部も含めて、港と歴史を体感できるような公園が良いと思う。

〔田中座長〕

この空間は呉の中でも中心部にあるので、その周辺も含めて、呉の港

と歴史を大きなビジョンに掲げてはどうか、というご意見を頂けた。

○

呉には何もないと言っている人が多くいると感じているが、20年先やそれ以降には呉の自慢とか誇りという部分が何でもあるまちになっていると思う。食もあり、素敵な空間もあり、チャレンジもできる空間、そういったものが盛り込まれたものがないと思う。

言葉が大事だと思うので、委員からの意見や、コピーライターの方々からの意見も取り入れるなどして検討していただきたい。

〔田中座長〕

「自慢できる」、「誇り」、「食」、「素敵な空間」、「チャレンジできる」をキーワードとして、挙げて頂いた。

○

ネーミング案は公募して、皆様が受け入れられるものができたらいいと思う。本日オープンを迎えるトライアルサウンディングのプロジェクトは「OUR PARK (アワー・パーク)」という名前で始めようと思っている。今後考えていく名称は、パブリックな名前で将来ずっと使えるような名前がいいのではないかと感じた。

大人と子どもものびのびと、まちを使えると良い。

私自身、子どもの頃は、中央公園の噴水で毎日遊んでいた記憶があるが、そういう公園の一つになればいいと思う。そういう記憶を持った子どもが大きくなれば、まちを盛り上げていくプレイヤーに育ち、それが脈々と繋がっていけばいいと思う。

〔田中座長〕

大人も子どもものびのびできるような場所があり、その中で遊んだ子どもたちが将来のまちづくりのプレイヤーになっていく、そういう将来像があるのではないかというご意見であった。

○

名称については、市民からの公募やプロの方に委ねて、魅力的な名前や表現を決めていければいいと思っている。

大阪府茨木市で公共公益施設の市民ホールと図書館が一体になった複合施設ができた。ネーミングは「おにクル」。6歳のお子さんが命名し、鬼ですら楽しそうであって来なくなってしまうそんな施設になったらという想いが込められている。大人がこういう魅力的な表現でというよりも、色々な方、特に子どものアイディアも非常に重要だと感じている。

未来への想いを考えているが、未来はどうなっているのか、ここにいる私たちはわからない。

私は再開発の仕事を携わったことがあるが資材の高騰など3～5年先の状況すらわからない状況にあった。ここで決めたことが、将来の枷かせになるのではなく、変わるところは変えていいというところを常に意識しながら、コンセプトなど、表現を決めていければいいと思う。

〔田中座長〕

名称に関しては、幅広く公募、多様な方々のご意見を伺えるといいのではないかというご意見。

もう一つ大事な部分として、未来はわからないことも多く、社会状況やまちの状況も変わっていく中で、ある程度自由度を持った形で考え、進めていく必要があるのではないかというご意見であった。

○

私は共生できるような場所になればいいと思っている。共生というのは、子どもから高齢の方であったり、人と自然とであったり、色々な人たちがそれぞれ心地よく過ごせるような場所になり、それが呉で言えばここにあるというものになればいいと思う。そこから呉市外の人からもこの空間がいいと見てもらえるようになり、それが世界に繋がって広がればいいと思う。

〔田中座長〕

キーワードとして「共生」ということを挙げて頂いた。共生は人と人の共生もあり、人と自然の共生もある。その状況が多くの人をさらに呼び寄せるのではないかというご意見であった。

○

若者から高齢者まで多くの人たちが、平日も休日も楽しめるエリアになればいいと思う。そういう大人が楽しく遊んでいる公園ならば、子どもたちも安心して遊べるのではないか。子どもが1人で来ても、周りの大人がたくさんいて、見守ってくれるまちなかの公園になればいいと思う。その子どもたちが大きくなったとき、自分たちはここで育ったと言えるような、まちな原風景ができるといいと思う。

〔田中座長〕

まず大人が楽しめるというところが未来の姿として必要なのではないか、それが子どもを引き寄せて、まちな原風景をつくっていけるのではないかというご意見であった。

○

この空間は、呉のまちな中心のエリアにあるが、あまり賑わっていない。人が集って、誰もが自由に楽しく集える場所、自分自身が好きになる場所、大きな施設は無理かもしれないが、例えば広島中央公園、福山の中央公園など、有名なところもあるので、そういったランドマーク的なものとして周知し、使っていただきたいと思う。

〔田中座長〕

一つは誰もが自由に集えるところが未来の姿としてあるのではないかというご意見であった。

もう一つは、ランドマーク的なエリアの象徴となるものが必要ではないかというご意見を頂いた。

○

仕事で、観光誌等の関係で呉の取材に行っている。呉市以外の方から、呉っていいよねと言われることが多くある。選びきれないほどの美味しいもの、海や島しょ部などの景観は外からの評価が高いと感じている。呉市民の方が、それを誇りに思えるようなまちなになったらいいと思う。

先程、20年かけて積み上げていくというお話をされたように、近所の人や郊外の人、県外の人が足を運ぶようになり、国内・海外の人が来

たくなる美術館の誘致ができる，目的地としてこの空間を訪れてもらえるように20年かけて段階を踏みながら，みんなで育てていけたらいいと思う。

〔田中座長〕

呉っていいよねということは，よく学生も話をしている。市民の方にもそのことを知って頂くのが大事で，この公園が20年後の姿として誇りを持つ大きな要素になればいいのではないかというご意見であった。

もう一つはこの20年で，段階的に進めていくというご意見で，それは先ほどの多くの市民の方に関わって頂くというところにも繋がっていくのではないかと思う。

○

今，8ブロックにおいて実証実験をやられているが，そういう様々な試みをしながら少しずつこの公園をよくして，その先に20年後の姿があると感じた。

先ほど人と自然の共生というお話をして頂いたが，ここの魅力は川があり，緑があるという点だと思う。これはまちなかにとって貴重だと思うので，これをうまく活かして，さらに伸ばしていくことが20年後の視点としてあればいいと思う。

11:50

**【議事(3)】**

「議事(3) 今後のスケジュール」について事務局より説明（資料4 今後のスケジュール）

〔田中座長〕

令和6年6月公表となっていたが，この会議での議論を増やすため，令和6年9月公表に変更した。

11:53

**【閉会挨拶（江田副市長）】**

本日は年末のお忙しい中，長時間にわたりご意見をいただきありがとうございます。ございます。

この度の会議では，委員の皆様には具体的なイメージを持って，ご意

見を頂けたのではないかと思います。壮大なスケールのご意見も頂き、大変参考になりました。また、熱い想いを持って呉のことを語って頂けたと実感しております。

本日の会議の中でもご意見を頂いておりますが、分断された空間を繋いでいくということが一つのキーワードだと思っています。八つのブロックを前提とするのではなく、また、堺川通りや堺川による空間の分断、公園の中の植栽による分断、そういった分断をいかに繋げていくかを整理する必要があると考えております。色々なコンセプトで繋いでいくという方法もありますが、グラデーションのように混ざり合いながら繋いでいくというお話も印象に残りました。

大きな軸として川の話がありますが、蔵本通りそのものも大きな軸だと思っています。幹線道路なので、どうしても分断が出てしまうことはやむを得ないですが、呉みなと祭ではパレードを行うなど市役所の前、図書館の前の空間自体も、大事にした方がいいと思えました。その意味で、車道と公園という分断ではなく、市役所前までを一体的な広場と捉え、その空間の中を車が走っているというような共存する形を視野に入れたらいいのではないかと思います。

これから、計画の素案をまとめて参りますが、小さなことを一つ一つ積み上げて進めていくこと、また、市民の方々を始めとして多くの方々に関わっていただき、この場所を育てていくことが大切だと思います。

引き続き皆様のご意見を頂戴しながら、取組を進めさせていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

### 【新原市長】

一点最後に私の気持ちを申し上げます。このとりまとめで「呉らしさ」という言葉が出てきます。

先程、委員の方もおっしゃったように、呉はあるがままでとても素晴らしい場所だと思います。ことさら呉らしさをつけ加えようとせず、呉にある自然体の中で色々な工夫をしていただく方が、呉らしいのではないかとのお考え方もあり得ます。この未来ビジョンをまとめていくときに「呉らしさ」という言葉の使い方を注意深く丁寧に考えていただきたいと思っています。

観光で来られる方に、どういったことを提供していくかということを考えたときに、我々が誇りに思っているようなもの、日常的なものがきっと魅力的だと思いますので、こちらが「呉らしさ」を押し付けないということも含めて考えていただければ大変ありがたいと思います。

12:00

**【閉会】**